

中学校〈社会科公民分野〉での実践報告

「世界の子どもたちの現状を理解し、自分たちの生活に生かそう」



宇都宮海星女子学院中学校での1・2年生の社会科における「ユニセフ学習」の取り組みを坂田享祐先生に報告していただきました。

本校は、静かな社に囲まれた学園で、「真理と愛に生きる」を校訓としています。生徒指標には、「謙虚、清純、明朗、自律」を掲げ、キリスト教の人間観に基づいて一人ひとりを尊重し、人間の全領域にわたる教育を行っています。

1. 活動のねらい

世界平和を願い、その実現と人類の福祉の向上のために、生徒と同年代である、同じ地球に生きる「世界の子どもたち」がおかれている暮らしや生活の現状に目を向け、理解することが大事であると考えました。ま

た、学習を通して、今現在の自分たちにできることを考えると同時に、各国との相互理解と協力のために働くユニセフの役割について考える機会として、本授業を計画しました。

2. 学習活動の流れ

ユニセフについて学習する



つかむ

○世界の子どもたちがおかれている暮らしや生活について、考えて調べ、それに対して取り組みたいことを考える。

調べる (1時間)

○国際連合の機関の一つである「ユニセフ」について学習する。
・DVD「ユニセフその40年のあゆみ」(30分)を視聴する。

確かめる (2時間)

日本ユニセフ協会へ「講師派遣」を依頼。講師の方から話を聞いて、質問をし、世界の子どもやユニセフの活動についての理解を深める。

- 1、調べた世界の現状について発表し、共有する。
- 2、自分たちの日常生活を振り返ってみて、世界の現状との違いを考える。
- 3、世界の子どもたちが抱える「教育」の問題について考える。
 - ①パキスタンの女の子、マララ・ユスフザイさんの話を聞く。
 - ②DVD「ベトナム・ディエンピエンの子どもたち」(15分)を視聴する。
 - ③ネパールの水がめ運びを体験し、労働の苦労や学校に通えない現状について知る。
- 4、世界の子どもたちの現状とユニセフの活動を整理する。
 - ①DVD「ユニセフと地球のともだち」(14分)を視聴する。
 - ②保健・栄養・水と衛生・子どもの保護・紛争や災害の話を聞く。
 - ③マラリア予防のための蚊帳に入る体験をし、ユニセフがマラリアを防ぐために、どのような努力や工夫をしているか知る。
 - ④資料「ユニセフ手帳」を参考に、さらに理解を深める。
- 5、世界の子どもたちのために 自分たちにできることを考える。
- 6、ユニセフの活動の基盤である「子どもの権利条約」(「教育を受ける権利」「表現の自由」)について知る。



水がめ運びの体験



マラリア予防のための蚊帳に入る体験

まとめる・発表する (1時間)

- 1、これからの生活や学習に生かせることを考えまとめる。
- 2、まとめたことを発表し、共有する。

3. 生徒の感想

- 私がいつも、当たり前に行っていることができない人がいたり、学習道具が買えない人もいるという話を聞きました。当たり前になってしまっていることを当たり前だと思わないで、恵まれた環境で生活していることに感謝しなければならないということを改めて実感することができました。
- 教育をきちんと受けることができている私たちは、本当に幸せなんだ

と思った。同じ、もしくは私より小さい子が15kgの水がめをもって長い距離を歩いているということを知って、すごいなと思った。

- マララさんの「1人の子どもと、1人の先生と、1冊の本と、1本のペンで、世界を変えることができる」という言葉に感動しました。1冊の本や1本のペンは私たちにとっては、本当に小さい物だけど、世界の子どもにはそれだけで生活が変わっていくんだと思いました。

4. 成果と課題

生徒たちは、普段当たり前に行っている日常が、世界では当たり前でないということを実感することができました。自分と同じ世代の、世界の子どもたちの現状を、水がめや蚊帳などをまじえて体感的に学習できたことは大変有意義でした。国際化にある現代において、世界の国々と

の接点は確実に増えています。本授業を通して、相手にとって本当に必要な援助とは何かを理解し、今後、生徒たちが世界に向けて「自分たちが何をするすることができるか」を考えていくヒントを得ることができました。